

核兵器禁止こそ平和へのビジョン

2020年・被爆75年へ「ヒバクシャ国際署名」を広げよう

核兵器禁止条約の調印・批准へ 世界の流れに貢献する日本を

2017年に国連で採択された核兵器禁止条約は、70か国が調印し20か国が批准しています。被爆75年となる2020年が、核兵器廃絶にとっていよいよ大事になってきました。

昨年12月には、アジア・太平洋における米国の同盟国であるオーストラリアで、最大野党・労働党が、政権公約に核兵器禁止条約への調印・批准を盛り込みました。

日本でも、安倍政権に代わる政治をめざす市民と野党の共闘が、禁止条約への調印・批准を共通政策に掲げることが求められています。広島・長崎の被爆者のみなさんがよびかけた「ヒバクシャ国際署名」を大いに広げるときです。ぜひ、ご協力ください。



ビキニ事件から65年 被災船員に救済と支援を

1954年3月1日、アメリカは中部太平洋マーシャル諸島のビキニ環礁で、広島型原爆の1000倍もの威力を持つ水爆実験「ブラボー」を強行しました。

静岡・焼津を母港とする第五福竜丸をはじめ、約1000隻もの日本の船舶が被ばくし、日本は、ヒロシマ、ナガサキに続く核の惨禍に直面したのです。

60年以上にもわたって、日本政府はその被害を隠蔽してきました。いま、高知県で暮らす被災船員のみなさんが国家賠償を求めて裁判をたたかっています。ご注目とご支援をお願いします。

国連認証 NGO・原水爆禁止日本協議会(日本原水協)

TEL03-5842-6031 HP:<http://www.antiatom.org/>